

# 教 育 研 究 業 績

氏名 地引 優香

学位：MA in International Higher  
Education and Intercultural Relations

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
教育学 言語学	教育学 教育社会学 外国語教育
主要担当授業科目	留学前ゼミナール、留学後ゼミナール、異文化コミュニケーション、Vocabulary, Homestay 英語、Advanced English Conversation 1・2、ビジネス英語1・2、English Discussion

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 1) 国際教育における目標設定	2018年1月 ～ 現在	留学プログラム参加学生が目標設定を行い、定期的に振り返ることで留学の効果を高める教育実践を行っている。
2 作成した教科書, 教材 1) 留学 Goal Setting Project ワークシート教材	2018年1月 ～ 現在	留学先での目標設定と振り返りのための教材。留学生が経験するチャレンジ、留学後の効果的な過ごし方、キャリアとの関係性の知見に基づいて執筆。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 留学プログラム現地運営	2017年8月 ～ 2020年3月	アメリカ、ボストンを拠点に日本人を主とする留学生支援。 (主な業務) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 空港送迎、文化施設訪問校外学習の引率</li> <li>• 到着オリエンテーション補佐、寮のツアー</li> <li>• 学内アメリカ文化体験イベントの運営</li> <li>• 地域交流イベントの運営</li> </ul>
2) ホームステイ事業	2019年1月 ～ 2019年6月	(プログラム概要) 春休みを利用した、ボストンホームステイ語学研修におけるホームステイの斡旋と生活支援。立命館大学(20名)、400名以上の中高生(日本(4グループ各60-80名)・中国(10名)・フランス(40名)・グアドループ(20名)・デンマーク(80名))の受け入れを実施。 (主な業務) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 空港迎え</li> <li>• ホームステイオリエンテーションの実施(日本語)</li> <li>• ホームステイ参加学生からのホームステイアンケートの回収とプログラム評価の実施</li> <li>• 新規ホストファミリーのリクルートメント</li> </ul>
3) 海外留学派遣事業	2019年9月 ～ 現在	(主な業務) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 留学フェアでの説明、宣伝活動</li> <li>• 教員引率留学プログラムの企画補助</li> <li>• アプリケーションの受付</li> <li>• パスポート確認等の渡航準備手続き作業</li> <li>• 派遣前オリエンテーションの実施</li> </ul>
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格, 免許 1) 中学校教諭一種免許状(英語)	2017年3月	平28中1 第3268号
2) 高等学校教諭一種免許状(英語)	2017年3月	平28高1 第3862号
3) 児童英語教員 昭和女子大学英語コミュニケーション学科認定	2017年3月	認定番号 T-2017-7
4) Higher Education Teaching	2020年2月	認定番号 2320169547

Certificate (Harvard X)				
2	特許等			
3	実務の経験を有する者についての特記事項			
4	その他			
研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1				
2				
3				
:				
(学術論文)				
1 Supporting International Students in the Times of Global Crisis. Diversity Abroad. (ウェブ掲載論文)	共著	2020年10月	Diversity Abroad	(タイトル日本語訳) 「世界的危機下における留学生支援」 コロナ禍の世界危機は留学生危機とも状況下である。しかし、国際教育交流は9.11アメリカ同時多発テロや2008年のリーマンショック等の近年の世界危機を乗り越えてきた。過去の世界危機と中国・日本のアメリカ留学事情を振り返るとともに、アメリカの大学がすべき留学生サポートとコロナ禍で台頭するオンライン留学や中国キャンパスでの国内留学プログラムなど、これからの留学形態について中国と日本の留学生動向に着目して考察・提案する。
2 Introducing Can-Do Assessment to Visualize Achievement and Enhance Motivation in English Reading Class (ニューズレター掲載論文)	単著	2022年5月	The University Grapevine, Issue 9	英語を主専攻としない大学1年生の必修英語リーディング科目において、モチベーション向上と、読解力の向上の可視化を目的に、学生の自己評価アンケートをGoogle Form上で実施した。使用教科書の各ユニットのターゲットスキル明示し、学生はユニットの開始前、終了後に各スキルに対する自信度を5段階評価で回答した。リーディングクラスでもタスクベースの授業展開を目指す。
3 留学経験が大学生の行動特性に与える影響	共著	2025年3月	東京成徳大学国際学部紀要	高等教育の国際化において留学は重要な役割を担う。本稿は東京成徳大学国際学部の全員留学制度による学生の行動特性変化を「JAOS 留学アセスメントテスト」を用いて分析し、カーネマンの思考システム理論から考察したものである。
:				
(その他)				
1 書評 Learning Self Through Shosin in International Education	単著	2021年8月	Critical Internationalization Studies Review1(1), 10-11. <a href="https://doi.org/10.32674/cisr.v1i1.4872">https://doi.org/10.32674/cisr.v1i1.4872</a>	Dr. Unkuleの著書「Internationalising the University: A Spiritual Approach」のブックレビュー、考察。Dr. Unkuleは、グローバル教育が活発化する中で初心に戻り、グローバル教育の意義と役割について、スピリチュアルの観点での考察が提言している。国際教育活動は他者理解の促進を期待されるが、まず自己理解を深めるきっかけづくりに共感する。
2 学位論文(修士論文) Goal Settings and Learning Outcomes of Japanese Students Studying in the US	単著	2018年12月	Lesley University School of Arts and Social Sciences	(タイトル日本語訳)「日本人学生のアメリカ留学における目標設定と学習成果」 近年、政府の留学支援政策の効果から、多くの日本人学生が留学している一方、留学の学習成果のアセスメントに欠けており、多くの研究がされていない。この研究は質的調査方法を用い、アメリカに留学する日本人学生の目標設定の役割を検証し、学生の抱えている課題を理解することを目的としている。結果より、自信や人間関係の構築などのスキルは留学による学習成果として注目されるべきであると考え、学生の留学経験において新たな見方を提示している

3 口頭発表 a Learning Outcomes from Language Intensive Study Abroad Experience in US	単独	2020年5月	NAFSA 2020 Annual Conference, St. Louis, MO (Online)	語学留学の留学効果を、Goal Setting Project より量的・質的調査方法で考察。留学目標は英語力向上に集中する一方、修得スキルはソフトスキルであった。留学動機がキャリア形成に関係することから、出発前から帰国後における包括的な留学プログラムの指導を提案する。
4 口頭発表 b Learning Assessment and Outcomes from ESL Study Abroad Program	単独	2020年6月	British Council Going Global 2020 The Conference for Leaders of International Education, London, UK (Online)	Goal Setting Project のスキルアンケートは、学生が自己の留学経験を評価する一つの方法として提案する。そこから見える習得するスキル、多くの学生が習得したいとするスキルと直面する障害、そしてそれらに対する効果的なサポートを考察する。
5 口頭発表 c 留学効果としてのスキル変容 —ボストン留学を通して学生はどう変化したのか—	単独	2021年6月	異文化間教育学会 第42回大会	どのようなスキルが海外留学プログラムの教育効果として向上するのかを研究課題に、学生の自己評価に基づいて留学前後のスキル変化を分析した。対象者は、アメリカ、ボストンで留学プログラムに参加した日本人大学生102人である。留学は異文化コンピテンシーに効果的に影響するが、留学期間の長さは異文化の理解度に影響しないことが分かった。また、自己効力感の向上は英語運用能力への自信と関係していると考えられる。
6 口頭発表 d Study Abroad Learning Outcomes and Assessment in Japanese Higher Education	単独	2021年9月	JALT Study Abroad SIG Conference (Online)	海外留学のプログラムアセスメントにおいて、学生の満足度からの視点と第三者視点でのエビデンスに基づくアセスメントが重要である。このプレゼンテーションでは、先行研究と留学経験のある2名の大学生へのインタビューから、プログラムアセスメントについて考察する。インタビューの結果から、教育機関と学生間で留学に対する目的とキャリア観のギャップがあることが分かった。より多様な観点からのキャリア支援が必要と考える。
7 口頭発表 e Citizen Science Project analysis in English reading class: Encouraging non-English major students to apply reading skills to real-life English	単独	2022年8月	NEAR Language Education Conference 2022, Online	英語を主専攻としない大学1年生の必修英語リーディング科目において、プロジェクト型期末課題の実践報告を行う。学生は、自らが選んだ Citizen Science プロジェクトのウェブページ(英語)から、学期中に学んだリーディングスキルを用いて 1. プロジェクトの目的、2. プロジェクトの参加方法、3. 参加すべき人物像とその理由を読解、分析し発表する。教科書の内容に近いコンテンツの教科書ではない英語の文章を扱うことで、実践的かつ自信の向上につながるよう指導の一事例として発表。
8 口頭発表 f Book Talk Competition to Read and Connect in EFL Reading Class	単独	2023年5月	JALT PanSIG Conference 2023, Kyoto, Japan	学習者が各々のペースで学びを進めることができ、かつクラスメイトと楽しみながら英語の読解力向上と英語力への自信向上を図った多読活動の実践報告を行う。京都大学大学院情報学研究所の谷口氏によって開発された、「知的書評合戦ビブリオバトル」から着想を得たゲーム形式の多読活動を、大学初年度必修英語科目において、期末のキャプストーン活動として導入した。本を紹介しあい、一番読みたい本をコンテスト形式で決める活動は、読解力だけでなくスピーキング活動としても有効だと考察する。
9 口頭発表 Empowering IEP Students through Interpersonal Skill Assessment	共同	2024年2月	EnglishUSA Professional Development Conference (PDC) 2024	(日本語概要) このセッションでは、英語集中プログラム(Intensive English Program; IEP)における学生を対象に、英語の習熟度と並行して対人能力の向上を促す取り組みとして、自己評価ツールの取り組みを紹介する。留学先での英語学習に対するモチベーション維持・向上を図るこのツールは、語学力のみならず、留学で培われるとされる対人スキルにも目を向けることは、留学経験を IEP 終了後の学習やキャリアの構築にあたって重要性が明らかにされている。これに加え、昨今語学学習アプリやオンライン英会話など、多様化する英語学習の形が台頭する中、現地の語学プログラムへ留学するという、伝統的な

				IEP への付加価値にもつながると考察する。
10 ポスター発表 Bridging Worlds: Cooperative Degrees and the Future of Study Abroad Advising	単独	2024年5月	NAFSA Annual Conference 2025 (New Orleans, LA)	国際共同学位がもたらす留学の新たな形の概念整理と留学アドバイジングの今後の方向性について提案。
11 ポスター発表 Dating App Abroad: Navigating the Practical Dating App Usage	共同	2024年5月	NAFSA Annual Conference 2025 (New Orleans, LA)	アメリカ英語学習プログラムにおける学生指導の一環として、オンラインアプリを用いた交流活動の指導の実践例を紹介。
12 Badge Up! Translating Study Abroad Learning into Expressing Excellence	単独	2024年6月	異文化間教育学会第46大会	デジタルバッジの概念整理、及びデジタルバッジを用いた留学の学習成果の可視化の実践例の紹介。
13 What is going on with Australia's new international education policy?: Understanding trends and impact	単独	2024年10月	JALT Study Abroad SIG (留学研究部会) 年次部会 名古屋 (金城学院大学)	オーストラリアの国際教育政策の一連の流れを整理し、ワーキングホリデーを希望する日本人学生の増加に伴う留学アドバイジングの方向性を考察する。
13 留学成果の評価と教育の質向上に向けたデジタルバッジ導入の可能性	単独	2024年12月	日本生涯教育学会自由研究発表会	資格枠組みとマイクロクレデンシャルの概念整理、及び、マイクロクレデンシャルの考えに基づいた留学の学習成果の可視化を試みるアメリカと日本の事例紹介。
(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。				